

C D T テスト（１・２年生の国語）の実施を通して

守谷市立大井沢小学校

1 はじめに

前回のC D Tテストの結果から、国語の総合的な力は全国平均を上回っており、学年により差はあるものの基礎的な力は身につけていることが分かった。しかし、「書く能力」と「文章の書き方」について達成不十分の児童が多く見られるなど、課題が残った。

そこで、国語の学習においては、単元を貫く言語活動を実践しながら、「書く」ことを重視した指導を行ってきた。

また本校では、今年度の校内研修のテーマを『意欲的に学習に取り組み「わかる喜び」を味わう児童の育成 ―ユニバーサルデザインと合理的配慮を取り入れた授業づくりを通して―』とし、研修を進めている。ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりとしては、5つの視点（①活動ルールの明確化 ②見通しを持つための工夫 ③学習課題・学習問題を提示する ④板書の工夫 ⑤授業展開の工夫）を設けた。特に視点⑤授業展開の工夫の中で、「書く」ことを重視した実践を行ってきた。

2 実践

(1) 1 学年「いろいろなふね」

- ① 「乗り物図鑑をつくって、来年の1年生に読んでもらう」ことを単元を貫く言語活動として設定し、並行読書を続けながら乗り物カードを作成していった。



- ② 本文を読み、線を引くことで、役目や工夫・機能について書かれた箇所が一目で分かるようにした。その後、ワークシートに書いてまとめることで、説明する文章を書くときには基本的な文型があることがわかるようにした。

- ③ 好きな乗り物について調べて乗り物カードを書く学習では、全員で同じ乗り物についてまとめ方を確認し、文型にあうように文を構成することを体験した。



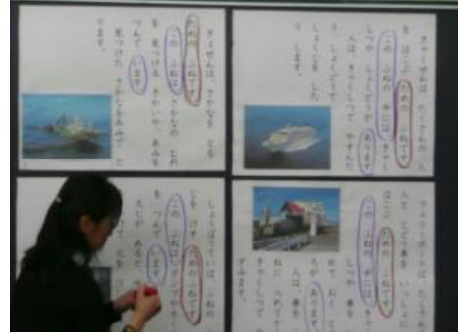
(2) ユニバーサルデザインの授業の視点⑤「授業展開の工夫」

- ① 実態に応じて学習のステップを設定する。

その時間の目標達成に向けて、学習のステップを細かな段階に分けた。できるだけ達成が可能なものにするすることで、児童の集中が持続しやすくなり、意欲が継続できた。

- ② 視覚化できるものはできるだけ視覚化する。

教材文が対比しやすいように、児童が使うワークシートと同じ形式のものを黒板に提示した。また、目で見えてわかるように、チョークの色を工夫して板書した。



- ③ 動作・作業を取り入れる。

認識だけの活動より、身体を使うことで理解が深まったり、記憶として定着しやすくなった。



- ④ ペア・グループ活動を取り入れる。

お互いの考えを伝えあったり、確認することで、自分の意見を深めることができた。また、理解に不安があるときには、友達の考えを聞くことで補足され理解が深まった。

- ④ 既習事項のポイントを取り入れる。

教材文の反復構造を利用して、「繰り返し」や「系統性」を理解することができた。



3 考察及び課題

- テスト実施後は、観点別の診断を参考にし、国語における児童の基礎力や活用力を把握・分析することを通して、学力の推移や実態を把握し、児童の学力の定着を図りたい。
- 到達度が十分でなかった学習内容に関しては、補充プリント等を活用して補うほか、教師の指導力という点にも反映できるよう生かしていきたい。
- 今年度の実施は、2月27日（金）とした。実施時期を、年度末にするか年度始めにするかについては、検討の余地がある。